

## 景況DI値は製造業が回復を加速するも、非製造業は停滞傾向



### 概況(全体)

7月分の県内景況は、前年同月と比較して「好転」したとする向きが10.0% (前回調査6.7%)、「悪化」が50.0% (同55.0%) で、業界全体のDI値は-40.0となり、前月調査と比較し8.3ポイント回復した。

全国及び東北・北海道ブロックも全体的にDI値は回復傾向を示しているが、その回復幅は小さい。

新型コロナウイルスの影響を強く受けている業種に加え、好調な業種であっても原材料の高騰や部品の調達不安など、先行きを不安視する声が引き続き多い。

### 業界別の状況

製造業は、業況が「悪化」したと回答する数が減り、「不変」または「好転」したとするところが増えた。

また、非製造業においては、業種により変化がみられたものの「好転」「悪化」「不変」の各項目の回答件数は、概ね先月と同数であり、横ばいで推移した。

結果として業界全体のDI値はわずかではあるが、好転に推移した。しかし、依然として燃料等原材料の高騰を懸念している声が多い。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-40.0	-28.5	-31.9
製造業	-33.4	-20.8	-25.4
非製造業	-44.4	-34.2	-35.4

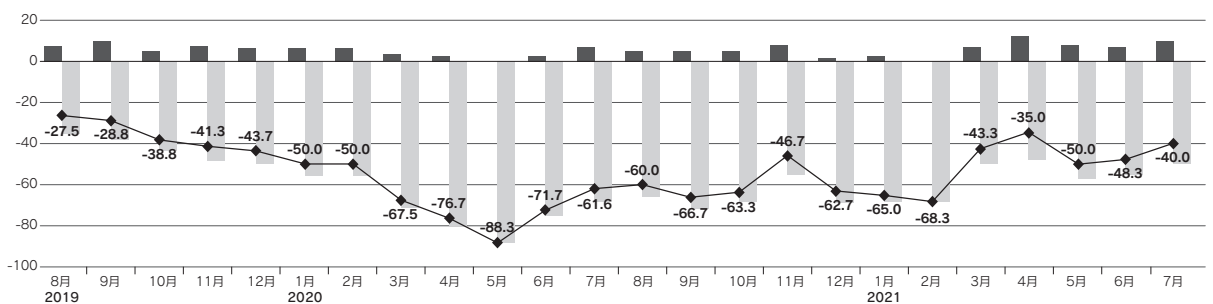
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☁️	☁️	☁️	☀️	☔️	☁️	☁️
非製造業	☁️	☔️	☁️	☁️	☔️	☔️	☔️

**[凡例]**  
 ☀️ 快晴 30以上  
 ☁️ 晴れ 10以上 30未満  
 ☁️ 曇り 10以上 30未満  
 ☔️ 雨 △10以上 △30未満  
 ☔️ 雷雨 △30未満  
**[天気図の見方]**  
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

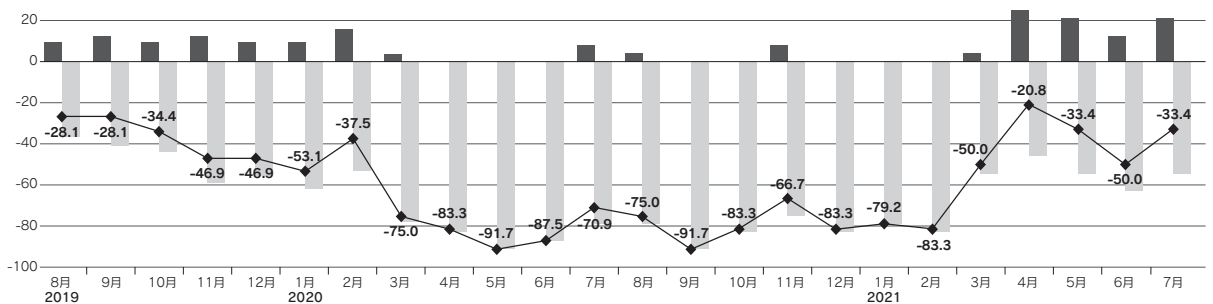
### 業界全体

【景況DI値の推移[前年同月比]】



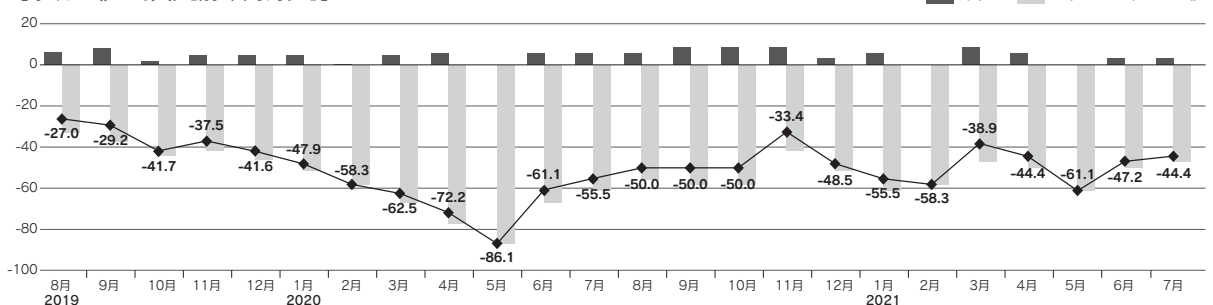
### 製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



### 非製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



●製造業

(回答数:24名 回答率:100%)

【食料品(豆腐)】

コロナの終息が見られず、業況は悪くなっている。学校給食も臨時休校や学級閉鎖など需要が不安定であるほか、飲食店の閉店も止まらない。家庭での飲食(家食)が増えたことで、スーパーの売り上げは好調であるが、スーパーで売られている豆腐に関しては、県外品が主流であることから、県内業者で家食増加の恩恵を受けている者は少ない。

【食料品(米飯)】

売上等は回復しているものの、コロナ以前には程遠い状況かつ、労働人口減少による人手不足が顕著に表れている。

【繊維工業(繊維)】

取り扱い商品ごとに受注状況に差が出ている。ブルゾン等のカジュアル衣料は増加傾向にあり、スーツ等のビジネス系は減少している。また、シャツやカットソーは製造の閑散期が広がる可能性がある。

【木材・木製品(一般製材)】

7月も国産材の需要が好調で(前年同月比 136%)フル生産体制を継続している。製品の受注量に対応していくため、原木の確保が今後の大きな課題となっている。

【窯業・土石製品(生コンクリート)】

7月の出荷数量は前年87.2%。4月～7月累計で95.1%となった。今後は学校関連事業及び2017年7月の豪雨災害の特別緊急事業に期待したい。

【鉄鋼・金属(機械金属)】

一部の原材料の値上げや、その確保が困難な状況にあり、収益悪化する企業も出てきている。対して当面の受注を確保している企業もあり、業種・業界における受注の差が大きくなっている。

【一般機器(金属加工)】

受注面では大半が前年同月比プラス傾向にあるが、まだ満足する量には至っていない。原材料の価格は高止まりとなっている。

【その他の製造業(漆器)】

今月も売上の減少が続いている。昨年は4月と5月の売上減少分を6月と7月で、埋め合わせできたが、今年は好転していない状況である。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業(米)】

度重なる緊急事態宣言に伴う消費の減退は変わらない。オリンピック需要も見込めていない。秋に収穫を迎える今年の米も豊作基調であり、在庫過多に追い打ちをかけようとしている。

【小売業(みやげ品)】

コロナ以前となる2019年との売上同月比で、7月は36%であった。また、コロナ禍であった前年同月比は91%という実績であった。

【小売業(自動車)】

7月の新車販売台数は登録車1,900台(88.2%)、軽自動車1,527台(83.7%)、合計3,427台(86.1%)であった。

【商店街】

新型コロナウイルス感染者が市内開催のスポーツ大会で発生したため、以降のスポーツ大会が軒並み中止となった。そのため宿泊・飲食店を始めとする関連業者に影響が出ている。繊維関係も旅行、外出控えのため売り上げは大幅に減少している。取扱商品にも微妙な変化(外出おしゃれ着からホームウェアへの転換など)がみられる。

【サービス業(旅行)】

県内のコロナ感染者が頻繁に出てきている。消費者は感染者数の増減に敏感に反応するため、予約が変更または取消など安定しない受注状況である。

【サービス業(建築設計)】

業況については、大きな変動はない。しかし、建築資材の価格高騰が続いており金額が定まらず、設計業務の納品時に工事費の算出が極めて困難な状況にある。そのためコストや工期に影響し、建て主とのトラブル発生が懸念される。

【建設業(リフォーム)】

ウッドショックにより、木材の価格が50%前後値上がったが販売価格に転嫁できていない。今後の契約分については順次対応する予定である。それにともない建設資材も10~15%値上がりしてきている。特に木材については材料として納品されるのかもしれない場合があり、都度、確認しながらの工事となっている。

【運輸業(トラック)】

燃料価格が3年ぶりの高値となっている。この状況が続くと運送事業者の経営は極めて厳しくなる。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。